

## 平成 27 年度 第 2 回 タウンミーティング 議事録（概要）

【開催日時】 平成 28 年 2 月 9 日（火） 午前 10 時～11 時 30 分

【会 場】 丸田集会所

【申込団体】 津田沼連合町会

【参加者数】 25 名（市長、市職員を除く。）

- 津田沼連合町会 代表あいさつ
- 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日は、このような機会をつくっていただきありがとうございます。習志野市長の宮本です。

このタウンミーティングは、直接こうしてお話しをさせていただいて、皆さんが日頃抱えている心配ごとや市の施策について、いろいろな意見交換をさせていただくために開催しております。

習志野市の場合は、非常に狭い市域ですので、そういった意味では皆さんが私のことを見かける機会も、おそらく他の市に比べると大分多いのかなというように思います。

ちなみに、習志野市の大きさについて意識されたことはありますか。習志野市の大きさは、千葉県の中で、市としては 2 番目に小さいです。南北に 6 キロ、東西に 9 キロの長方形の中に北東（内陸）から南西（海浜）に帯が斜断するような形となっており、この面積は 21 平方キロメートルです。

人口は 16 万 8 千人です。21 平方キロメートルに 16 万 8 千人ということですから、1 平方キロメートルだと、ちょうど 8 千人の人口が住んでいるのが習志野市です。ちなみに順位を言いますと、この 16 万 8 千人というのは、千葉県の中で 10 番目に多い人口となります。千葉県は 37 市 16 町 1 村で構成されており、合計で 54 市町村となっています。その中で、習志野市の人口は上から数えて 10 番目にあたります。今言いました面積につきましては、54 市町村の中で 51 番目、つまり 4 番目に小さいです。「市」に限れば、2 番目に小さいです。ちなみに、1 番小さいのは浦安市になります。10 番目に多い人口と、下から 4 番目に小さい面積ということは、とても人が密集しているということです。その密集している度合・人口密度でいうと、千葉県の中で 3 番目に高いです。ちなみに最も人口密度が高いのは、浦安市です。そして 2 番目が市川市、3 番目が習志野市、4 番目が松戸市、5 番目が船橋市、1 平方キロメートルあたりの人口密度だけでいうと、浦安市、市川市、松戸市、船橋市と同等です。

なぜ人口密度のお話をするかという、人口密度が高いということは、例えば道路を敷くにしても、水道管やガス管、下水道管を敷くにしても、人口密度が非常に密集している、非常に効率よく設置が進みます。まさに“コンパクトなまち”というのが、

習志野市の一番の特徴です。“コンパクトなまち”というまちですから、結束力を目一杯高められると思っています。

今はインターネットを利用されている方がいらっしゃるかと思いますが、例えば、本日で言いますと、今、ビデオカメラで撮っています。このビデオカメラですが、昔はここまで小さくありませんでしたね。もっと大きくて、肩で担いでいたような気がしますけれど、今はカメラより三脚の方が大きいです。ここで撮った画像や動画を瞬間的に、そのまま生中継で世界に配信することができます。携帯電話でも、同様にできます。それを皆さんができます。皆さんがちょっと呟いたことが世界中に広がっていきます。これはすごいことですが、昔は正しいのか、間違っているのか、どちらかはっきりした情報しか流れませんでした。しかし、今は、正しいのか、間違っているのか分からない情報も世界中に流れています。そんな、ものすごい情報の量の中で、正しいか間違っているか、はっきりしている情報というのは少ししかありません。多くが正体不明な情報です。正しい情報だと思い込んでいても、間違っている情報であったり、勘違いを含めていっぱいあると思います。そういう情報の中に、包み込まれているのが今の時代なのです。

そのような中で、私たち行政というのは、いつも正しい情報を皆さんにお届けするという立場なのですが、これがまた大変な作業となります。なぜならば、正体不明な情報にかぎって、楽しい情報が多いです。だから、週刊誌がいっぱい売れるんだと思います。スポーツ新聞も記事の一番最後にハテナマークがちょっと書いてあるような、そういうものが一番売れています。しかし、見方を変えれば危ない情報とも言えるのです。本当に真剣な情報を流すときに、そのようないい加減な情報にかき消されてしまう可能性が多いからです。

例えば、3月11日がそろそろ近づいてきますけれども、当時の津波の情報はまさしくそのものでした。習志野市では液状化でしたけれども、それまで経験したことがない津波、習志野市ではそれまで経験したことがない液状化ということを目の当たりにすると、皆さん、いろいろな想像を働かせますよね。津波は本当に大変でした。まず、来る、来ない、「来るよー。」と伝えても、「いや、今までだって来たことがないから、来ないよ。」と言われる。それでも、行政は一生懸命に「来るよ。来るよ。」と情報を流していましたが、周りの人は「いや、来ないから大丈夫だ。ちょっと海にでも見に行こう。」と、そういった情報にかき消されてしまいました。だから、逃げ遅れがあったのです。むしろ、逃げる人の方が珍しかったのかもしれない。しかし、今はもうあの様子を見ているから、津波だと言ったら皆が避難します。習志野市においても同じです。液状化だということを今は言われているから分かりますが、当時、私は現地にいましたけれども、水がジョボジョボと地面から出てきていました。当時は経験したことがないですから、「これは何の水だ。」「これは水道管が破裂したのか。」「液状化っていうものなのかな。」「いや、多分下水道管が割れたんだ。」と話していたくらいです。そういったいい加減な情報の中で私たちは生きているということですよ。転ばぬ先の杖と

どうか、これから先、必ずしも正しい情報がしっかりと皆さんに正確に伝わるかどうか分からないという部分も含めて、この習志野市で言えば、私と皆さんとの距離というのはできるだけ縮まっていたほうがいいだろう、そういった思いでこのタウンミーティングを開催しています。

習志野市の場合は、小さな面積のまちですから、私はいろいろな所に伺えます。お隣の千葉市は習志野市の何倍あると思いますか。習志野市の13倍の大きさです。ちなみに、千葉市の中で習志野市と同等の面積と人口であるのは、稲毛区です。千葉市長である熊谷市長さんは、習志野市の13倍の面積、そして96万人の人口ですから、6倍の人口の市長さんとなります。八千代市は2.5倍、船橋市は4倍です。ちなみに、船橋市は人口が4倍で約60万人、面積も約4倍、財政規模も約4倍、全部約4倍です。なので、船橋市のニュースなどを聞いて、イベントに何人集まったとか、いくらかかったとかいうことについて、4で割って習志野市の数と比較してどうなのか、という見方をよくしています。

## ● テーマについての意見交換

### 認知症の予防と支援について

私は医師ではありませんので、確定的なことや確実なことというのは、最終的にはお医者さんに聞いていただきたいと最初に申し上げておきますが、認知症とその制度について、お話をさせていただきたいと思います。

まず、認知症とは何かということですが、最近、物忘れがひどいなと思う人、この中にもたくさんいらっしゃるかと思います。実は、物忘れが最近ひどいなと思う人の中には、ほとんど認知症の人はいません。なぜかというのは、物忘れをしたということを知っているからです。私自身も、このことを聞いてかなり救われた部分もありますが、一般的に言われているのは、記憶は覚える力と、思い出すという力、大体この2つで構成されていると言われていています。覚える力は、ほとんどが年齢に関係なく同じです。問題は思い出す力のほうです。思い出す力は、年齢に関係なく、個人差があります。訓練している方、要するに習慣づいている方は身につけています。しかし、覚える力というのは基本的には一緒だそうです。具体的なイメージですが、皆さんは本日、ここにいらっしゃる人の顔は見たことがありますよね。では、皆さん、その人の名前を言えますか。多くの人と言えないのではないかと思います。しかし、その人の顔を見て、「あっ、この人はこの地域の人だな。」と思う、それはなぜかという、覚えているからです。顔を覚えているからです。名前が分からないというのは、思い出す力との関係です。もしかしたら名前を聞いたことがない人もいらっしゃるかもしれませんが、その名前を聞いたことはあっても、なかなか思い出せないということが一番多いのではないかと思います。ところが、そういう方々に何かヒントを出すと、大体分かります。簡単に言うと、ヒントを出すと分かるものというのは、「全て覚えている(覚える力)けど思い出せない(思い出す力)」ということです。例えば、「自宅から、ここに来るまでの道のりを全

で正確に言ってください。」と言ったら、なかなか全て言える人はいないと思います。なぜなら、思い出せないからです。ところが、実際は自宅に帰れますよね。なぜ帰れるのかというと、帰る最中、所々で曲がる場所を実際に目で見て覚えているのです。だから、「あっ、ここを右だ。」とか「左だ。」とか「真っ直ぐだ。」ということを見ること(ヒント)により思い出しています。それで、自宅に帰ることができるのです。そのようなことから、本日、ここにいらっしゃった方は皆、認知症ではないということです。というわけで、認知症の傾向というのが、ここでは重要になっていきます。

今、お話ししましたとおり、覚える力がどうもなくなってきている、例えば、「今日の朝ごはんは何を食べましたか。」との質問に対し、「あー、今日の朝ごはんは何を食べたかな。」と思う人は、認知症ではありません。それは、朝ごはんを意識しているからです。しかし、「今日の朝ごはんは何を食べましたか。」と尋ねたときに、「朝ごはんってなんですか。」と言う人、これが認知症です。朝ごはんという意味が分からないのです。だから、認知症の方はいわゆる徘徊をするのです。なぜかと言うと、どこを歩いているのかが分からないからです。自分の家がどこなのか分からない、そもそも、なぜその場所にいるのかが分からないのです。もっと言いますと、道路に車が通っていますが、そのような症状の方の大体が道の真ん中を歩きます。そして、後ろから車が来てクラクションを鳴らします。それでも、歩き続けます。なぜ、クラクションを鳴らされているのかが分からないからです。道を歩いていて車が来たら、なぜ、避けなくてはいけないのかが分からない。普通は、車にぶつかるとうまいとか、死んでしまう、怪我をするなどと思いますよね。そういった感覚が全てありません。だから、ぼーっと歩いているのです。それが、いわゆる認知症です。

今、言いましたことを逆から理解していきますと、そのような様子を見せている方は認知症ですから、絶対に頭ごなしに何かを言ったりしてはいけないということです。このような症状は、完全に認知症の症状のひとつですから、ご本人はわざとしている訳ではありません。訳が分からなくて道の真ん中を歩いている人にそのようなことを言ってしまうと、不信感を持たれてしまうだけです。一切、そのようなことを言ってはいけません。

覚えておいていただきたいのは、覚える力というものが本当に衰えてしまったときが認知症です。思い出す力、いわゆる物忘れが最近ひどくなったというのは、あまり意識しなくていいそうです。ちなみに、この思い出す力というのは、鍛えれば鍛えるほど強くなります。ですから、もし、日頃から「自分は頭が悪いんだよね。物覚えが悪くてさ。」と言っているお孫さんがいらっしゃったら、今日、家に帰ったらそのお孫さんを勇気づけてあげてください。「違うんだよ、覚えているんだ、お前は頭がいいんだよ、思い出す力がないだけなんだよ。」と、言ってあげてみてください。そうしたらお孫さんは、「ああ、そうなんだ。」と、少しやる気になります。これは私の経験上で、この話をすると、意外と子どもはだんだんと目が輝いてきます。「そうか、俺は頭が悪いわけではなかったんだね。」と。

次に、今、習志野市に何人くらい認知症の方がいるのかというお話です。

これはあくまでも推計ですが、厚生労働省の発表によりますと、65歳以上の高齢者に占める認知症の方の割合は、平成25年では約7人に1人であったものが、平成37年には約5人に1人に増加する見込みであると言われていています。そして、これを本市に当てはめると、習志野市内の認知症高齢者数の推計は平成25年で5,190人、平成37年になりますと、8,294人になります。平成37年というと、今から10年後ぐらいです。それだけ、認知症高齢者の方が増えていくということです。

私は43歳で、あと20年もすると63歳です。一番人数が多い世代というのは私たちの年代になります。いわゆる高齢化問題というものは、私たちの世代が山を駆け登り、その下り坂になっていくと、やや鈍っていくとよく言われています。そういった意味では、今後30年間はこのような状態が続きます。30年すると、私は73歳になります。多分皆さんは、その頃はまだまだお元気です。お元気ですからね。これからの医療の進歩は目覚ましいですからね。

そして、認知症に効果があることというのは、とにかく、少しでもそのような症状がありそうでしたら、お医者さんに相談する、あるいは、近くの人に相談するということです。ただ、なかなか自分自身の症状というのは自分では分かりません。先程、言いましたように、自覚症状があるうちというのは実は認知症ではありません。自覚症状という字は、自分で覚えている症状と書きますよね。なので、自分で認知症かなと思うのは、あてにならない場合が多いそうです。自分で自覚していないですから、周りの人や近くの人が見ていて、「あれ。」と思ったときに、認知症の可能性が高いわけです。「俺は最近、何か物忘れがひどくて。」と言うのは、そのこと自体を覚えているわけですから、認知症ではありません。認知症というのは、寝ているときに、いびきをかいているのと同じ感覚ですかね。自分では覚えていないですよ。

次に、認知症かなと思ったらどこへ相談したらいいかということです。先程、言いましたとおり、一番はお医者さんです。そして、“高齢者相談センター”というところがあります。高齢者相談センターは、地域包括支援センターという言い方もします。この津田沼連合町会の皆さんについては、サンロード津田沼の6階に津田沼・鷺沼地区の高齢者相談センターの部屋があります。他人に知られたくないという思いもあるかと思えます。

そして、この認知症は自分の名誉に深く関わる症状が出てきます。今までいろいろなことをやられていた人が、急に、このような症状になるわけです。なので、すごく人に言いにくい症状でもあるということです。そうしますと、なかなか逆に相談が出来ずに、症状が悪化していくということもあるのです。

そして、認知症になると一番苦しいのは誰かという話になります。認知症になって一番苦しいのは、“本人”です。よく、ご家族のように思われていますけれど、実は“本人”です。なぜかというと、先程言いましたように、本人が自覚していないことを言われてしまうのです。覚えがある例としては、「あなた、お酒を飲んでダメと言っているの

に、またお酒を飲んだでしょ。」と言われると、「飲んでいないよ。」と言いながら、心の中では「飲んじゃった。」と、なりますよね。でも、それが全く訳の分からないことを言われてしまうとイラッときますよね。例えば、「あなた、物を盗んだでしょ。」と言われて、「盗んでいないよ、俺がそんなことをする訳ないじゃないか。」と、答えます。ところが知らないうちに、お店に行って、物を入れてしまっているのです。全く記憶がないのに物が自分の袋に入っているのです。それで、「盗ったでしょ。」「盗っていないよ。」の繰り返しとなりますが、本人は盗ったこと自体を覚えていません。ところが、袋の中を開けると入っているのです。すると本人は、「誰かが入れたんだよ。」と言います。しかし、誰も入れてはいません。後から、店舗のビデオを見ると、自分で入れている。でも、それを覚えていません。そうすると、一番傷つくのは、“本人”なのです。そして、当然、どうしたらいいのかわからなくてイライラします。先程も言いましたが、このような方を発見したときは、本人自身はそう思っていないというケースがほとんどですから、とにかく優しく接することです。“驚かせない”。“急がせない”。“自尊心を傷つけない”。この3つが大切です。

直接、本人に伝えるかどうかを迷ったときというのは、自分で対応すると大抵の場合、恨まれたりします。特に、ご家族の方ではなかったり、全くのあかの他人だとすると善意で伝えた方なのに加害者のような扱いを受けてしまいます。なぜかという、記憶にないことをいきなり言われて、プライドを傷つけられる訳ですから。ですので、直接、本人には言わずに、間接的に相談機関、高齢者相談員さんや民生委員さんに相談するなど、そのようなかたちをとるのが一番いいです。

そして、次に苦しいのは、ご家族ということになります。もちろん、そういった症状が出ている方への対応ですから、全く常識が通じなくなります。やはり、ご家族は疲れるでしょう。下手をすると、ご家族がうつ状態や精神疾患になってしまうケースがあります。こうなってしまうと、本当に最悪です。例えば、認知症の方が家にいらっしやると介護をしているご家族の方はイライラしてきます。そうすると、認知症ではなくても、以前と比較すると随分と痩せてしまっている、あるいは太ってしまっている、何か様子がおかしくなるということがあります。そのようなことを、地域の皆さんで見ているといいですね。その中で、誰かが「どうしたの。」と、声をかけるような、そういった暖かく見守っていく体制を作ってほしいです。そして、高齢者相談センターや市役所、民生委員さん及び高齢者相談員さんなどに相談しやすい体制を整えるということも大切です。そのようなことがありましたら、すぐに相談するということをぜひ覚えておいていただきたいと思います。

次に、認知症の方のご家族、あるいは認知症の方を介護する立場になったときに、日常生活をどのように送ればいいのかというお話です。

今、高齢化率というのは25パーセントであり、4人に1人の割合で高齢者と言われていますが、バブル全盛期の時代というのは、5パーセントと言われていたときがありました。5パーセントですよ。4人に1人ではなくて、20人に1人の割合です。その

時代は、認知症自体が理解されていないので、徹底的に差別的な扱いを受けていました。しかし、今はそういった意味では4人に1人が高齢者、さらに、その中の7人に1人が認知症の恐れがあるということでは、以前と比較して、相当、過ごしやすい時代になっています。しかし、認知症を抱えているご家族の方の辛さというのは、これからも高まっていくわけです。

そのような中で、本市では、今年から“ならしのオレンジテラス”というものを開くことになりました。既にスタートしているところもありますが、ここは認知症カフェというように謳っておりますので、認知症の方はもちろんご利用できますし、認知症ではない方もご利用できます。なぜ、認知症ではない方もご利用できるのかと言いますと、認知症というものを理解してもらいたいからです。認知症の方々と語り合うということも、情報交換としても必要であり、地域それぞれの理解の促進ということにも繋がっていきます。

今、習志野市は“みんながやさしさでつながるまち”ということで取り組んでおりますので、そういった意味でも、ぜひ、そのような方々と交流していただきたいと思えます。なるべく外に出て、交流するということが大切です。

そして、“認知症サポーター養成講座”というものを全市的にいろいろなところで行っています。今、私が腕にしているこのゴム製のリングですが、これが認知症サポーター養成講座を受けた証です。習志野市では全職員がこの講座を受けています。

認知症に限らず、障がいを持たれている方についても、大切なのは理解することです。直接的にボランティアをされていなくても、理解していただくことだけでも、ボランティアと同じになります。理解するということは、その場にいたときに、冷静に立ち振る舞いができます。また、不快な思いをしません。何も知らずに、そういった方に会うと不快な思いをすることがありますが、理解していればそのような思いもしないはずですよ。

以前、高校生に、「最近、何か悩んでいる人はいない。」と尋ねたところ、「地域のおじさんに、理由もなく怒鳴られて困っています。」と言う人が多くいました。その高校生に対して、「そういう人は、このような可能性があるよ。」と伝えると、「ああ、そうかもしれません。」と言って、そこで勉強してくれました。まだまだそういう意味では、情報が行き渡っていないということですよ。ですので、本日、ここで聞いた話というのは、なるべく地域の方に伝えていただければ幸いです。そういった意味でも、このタウンミーティングを開催しております。

その他につきましては、この後の質疑応答の中で皆さんといろいろなお話をさせていただきますと思っていますが、この認知症の問題というのは今後、ますます深刻になっていきます。これは、間違いありません。

市内の防災行政無線やメールなどで、「行方不明の方がいます。」というような放送が流れていますが、ほぼ、その全てが認知症の方です。先程も言いましたように、車道の真ん中を歩いている方にクラクションをビービー鳴らす人もいれば、そっと飛び出

して行ってサポートする人もいらっしゃると思います。そのくらい認知症というものが、間近に迫ってきている問題であるということです。

さらには、若年性認知症というものもあります。それぞれの症状があるということです。とにかく、このようなことを事前に覚えておいていただいて、そして活用していただければと思います。

そして、健康に関することで私の方から言えることですが、最近、インフルエンザとノロウイルスが流行ってきています。これは気を付けてください。風邪はどこから入ってくるのかということですが、空気感染が半分、もう半分は、ほとんどが手から感染するそうです。その予防として、手洗い、うがいとよく言われています。手を洗うときに、手を合わせると意外なことに気づきます。親指の腹が洗えていません。この親指をしっかり洗うということがコツだそうです。なぜ、手洗いが必要なのかと言いますと、多くの人が知らない間に顔を触っています。菌が付着した手で顔を触り、そこから徐々に鼻へ入っていく、そして喉へと入っていきます。次に、うがいはなぜするのかと言いますと、鼻の中にも、口の中にも、唾液あるいは粘液が入っています。それらは、全て水分です。花粉症では、なぜ鼻水が出るのかと言えば、花粉が鼻へ入ってきた際に、体外に出そうとする反応なのです。ところが、鼻水は水分が無くては出てきません。水分が無くて出てこない、中へと入り込んでしまいます。それが、風邪をひく状態、又はインフルエンザになる状態となります。うがいをする意味というのは、口の中を常に湿らせておくということです。ウイルスは小さいですから、その湿気によって抑えつけることができるのです。ウイルスは、乾燥しているから飛び回ります。ですから、家の中はなるべく湿気を保つということも、大切なことです。タバコを吸われる方は、特に口の中が乾きやすくなりますので、水を飲むだけでなく、飴をなめる、ガムを噛む、特にガムを噛むというのは非常に良いと言われております。私も実践しており、年中、ガムを噛んでいます。風邪をひかないです。ひいても軽症です。それは、今、言いましたように口の中を常に唾液で湿らせている状態ですから、何か入ってきたとしても、唾液が殺菌し、くしゃみや咳で常に外に出してくれるということです。

いずれにしても、健康が害されてしまういろいろなことに影響します。ですので、皆さんは健康を害することのないように、お気を付けてください。

最後に、習志野市の平成 28 年は、とにかく“地域創生”との話です。この気運をどんどん盛り上げていくわけですが、この“盛り上がり”と健康は密接に関係があります。

今、国の安倍内閣は、盛んに“1 億総活躍社会”と言っていますよね。あの総活躍とは、どういう意味なのだろうとよく言われています。今の時代は、とにかく耳にタコができるほど、“少子高齢化”と言われています。その中で、高齢化という言葉がよく使われていますが、高齢化という言葉は、少子化という言葉がないと、出ないものです。要するに、世代の人数が全て均一であれば、そもそも高齢化社会というものはありません。しかし、なぜ高齢化社会というかと言ったら、少子化社会だからです。では、少子

化社会というのは何なのかと言ったら、子どもが少ない或は少なくなるということです。そして、子どもとは何なのかと言ったら、よく未来と言いますよね。子どもは、総合的に未来の原動力なのです。

では、原動力とは何か。ですが、皆さんは今、服を着ていますよね。それぞれ、全く別のものを着ています。それだけ多くの種類の服があるということです。その服というのは、誰かが必ず作っており、人が絡んでいます。そのような形で考えていくと、頭の先からつま先まで、一体何人の人が関わっているのかということになります。そこに関わっている全ての人達がそれぞれ生活しています。物を食べたり、お買い物をしたり、移動しながら生活しています。そういった一人ひとりの動きによって、実は経済というのが支えられているのです。

行政は、皆さんから納めて頂いた貴重な税金で運営させていただいております。しかし、極端な話になりますが、その税金というのは皆さんが全員、生活保護になってしまった場合、1円も入ってきません。1円も入ってこないどころか、生活保護ですから全て行政から出すことになります。1円も入ってきませんから、出すお金というのは全て借金となります。そして、その借金は誰が払うのかと言ったら、借金も納税で全て賄いますので、納税する人がいなくてはダメだということです。しかし、今は少子化ということの中で、納税する人が徐々に少なくなってきています。少なくなるということは、先程も言いましたが、服を着ている人が少なくなりますから、その服に関わっている人も少なくなります。いわゆる、生産力が落ちるという言い方をします。要するに、人が動けば動くほど、平たく言いますとお金も動きます。そのお金の動きの中で、税金というものが生まれて、その税金が行政に入り、皆さんにいろいろなサービスを提供できるという循環になっています。その循環が、これからは徐々に小さくなっていくということです。

そして、お分かりであるとおおり、健康を害するという事は、まさに自分自身の動きが止まってしまうということです。全ての動きが止まってしまう。個人だけの問題にとどまらず、人間社会がいろいろな方々と繋がって、成り立っているということにおいては、皆さんが不健康になるということは、まちそのものが不健康になってしまうということです。このようなことを、やんわりと伝えている言葉というのが、“1億総活躍社会”の総活躍という部分です。そのように覚えておいていただけると、政治の見方というのも少し変わってくるのではないかと思います。

この辺りの話で言いますと、公共施設再生計画における菊田公民館の話などありますが、そのような大きな動きの中で、考えているものであります。もちろん、話し合いをしながら進めていきますが、一つひとつを冷静に考えなければなりません。

最初の話に戻りますが、いろいろな情報が飛び交っている今の情報化社会の中で、いい加減な情報でやりとりをしていると、下手をしたら喧嘩が始まってしまう。その喧嘩が大きくなるのが戦争です。現在、私が一番いろいろなことで危惧していることは、今まで右肩上がりになっていた時代から、これから少なくなっていく資源をどのよ

うに皆さんと我慢しながら配分するかを考える世の中へとなくなっていきますから、そのときは当然、高揚感よりも不快感のほうが先に立ちます。その不快感がでたときに、先程の認知症の話ではないですけども、理解していれば対処できますけれども、理解していないと、やはり怒りが最初に出てきてしまいます。その考え方と同じです。ですので、なるべくこのような情報を広めて、そして皆さんと共有していこうということが、このタウンミーティングの趣旨であり、本日の題材である認知症についてのお話でした。ご清聴、ありがとうございました。